

---

## 第8回 FAO 林業委員会

宇津木 嘉夫

---

FAO には最高決定機関である総会の下に理事会があり、その下に8つの常設委員会が設置されている。林業委員会はその1つで、通常2年に1度開催され、FAO の林業分野の活動のレビューや今後の方向を検討するとともに、森林・林業における世界的な諸問題やこれに対する取組みにつき検討することをその任務としている。

近年、熱帯林の減少、アフリカにおける砂漠化の進行、ヨーロッパにおける酸性雨が主要因と見られる森林の被害等が世界的に問題となっている現状の下で、第8回林業委員会が去る4月21日から25日までローマのFAO本部で開催され、林野庁からは輪湖指導部長と筆者が出席したのでその概要について報告します。

会議の主要な議題は①林産業及び林産物市場、貿易の社会経済開発における役割、②生活の質にとって森林が重要であることに対する政治的・社会的認識を高揚すること、③森林保全、④熱帯林開発委員会で採択された熱帯林行動計画、といったものであったが、この中で最も重要視され議論されたのが④であったので、これについてややくわしく書いてみたいと思います。

1. 熱帯林行動計画 (Tropical Forestry Action Plan, 略してTFAP) は、60年6月の第6回FAO熱帯林開発委員会で採択されたもので、今後、熱帯林の保全及び開発に際して重視すべき分野として5分野(①土地利用における林業、②森林産業の開発、③燃料とエネルギー、④熱帯林生態系の保全、⑤制度)を示し、各国及び国際社会の援助の指針の役割りをするとともに、それぞれの分野に必要な10年間の援助額が参考として示されている。このTFAPは、60年7月メキシコで開催された第9回世界林業会議で支持され、同年11月の第88回FAO理事会で追認された後に、61年2月にパリで行われた「森林に関する国際会議」でも支持されたものである。これは全世界的な規模の教科書のようなものであり、これを実際に当てはめるには国別の行動計画を作ることがまず必要であるので、今回の会合では、いかにして資金を確保し実行に移すかの議論が行なわれた訳である。その結論は、FAOの事務局長が特にTFAPの資金需要を含め、世界の森林を保全するための資金需要に関して理事会に報告書を提出するというところで落ちついた。

---

UTSUKI, Yoshio: The Eighth Session of the Committee on Forestry (COFO),  
FAO

林野庁海外林業協力室

2. TFAP については、途上国、先進国の強い支持があることが明確になり、バイ(2国間協力)、マルチ(国際機関等を通じた協力)または、政府ベース、民間ベースを問わず、今後の熱帯林の開発・保全等の枠組みとなることが確実である。TFAP を実施するために、FAO、UNDP、世銀等が中心となり、マルチドナーミッションを熱帯諸国に派遣して、各国の行動計画を作成することが進行している。これらのミッションはいわゆるプロファイ(プロジェクト・ファインディング)ミッションであり、各熱帯国で実施すべき熱帯林関係プロジェクトリストとその優先度が決められるであろう。これらのプロジェクトリストに従って先進国や国際機関が援助を行っていくことになる。

開発途上国の森林・林業に対する日本の協力は今後まだ相当拡充される方向にあり、また、開発途上国もそれを強く期待しているところである。このためには、熱帯諸国における国家計画の中で高い優先度をもった優良なプロジェクトの発掘が必要であるが、現在進行している上記のマルチドナーミッションはそのような役割を担うことになっている。従って、日本としては、このマルチドナーミッションに参加して、優良なプロジェクトの発掘とそれへの日本の援助を検討する等の積極的な対応が望まれるところである。

3. 会議に根廻しが必要なことは洋の東西を問わない。現代流に言えばロビーイングということであろう。国際会議でもこれが激しく行われているが、ヨーロッパ・アメリカ等は言葉の障害は少なく、もともと隣組という意識であるから根廻しや情報収集も気軽にできる立場にある。そして会議をリードしているのはやはり彼らであると言わざるをえない。そのような中であって、日本の立場が開発途上国の大勢に抗さざるを得ず、且つ、ヨーロッパ・アメリカ等の主要先進国の立場と相入れない時は大変である。とにかく、先進国の立場を聞いてまわり、何とか日本の意見が否定的に映らないように工夫する必要がある。

4. 林業委員会の直前に、熱帯林行動計画に関する林業アドバイザー会合が開催された。大会議の前には非公式な小会議によって荒ごなしを行うのは通例であり、この林業アドバイザー会合もそのようなもので極めて重要な会合であった。主要先進国政府や援助機関の高官が個人の資格で参加しているとは言うものの、それぞれ自国を背負って出席していることは明瞭である。熱帯林行動計画を実行に移すために熱帯諸国へミッションを派遣すること、国毎のミッションリーダーにどこの援助国になるか等の実質的なことはこの場で決められている現状である。本会議だけ出ていると、いつそんな方向が出されたのかと思うことがあるが、非公式な会合や、個人的なつながりがいくつか束になって大きな方向が作られていくことがわかる。そのような場の常連になることが、国際社会で発言力を確保するために大切であることを教えられた会議であった。